

1. 応募について		
No.	質問	回答
1-1	応募資格が前回から変更になっています。過去にJAXAと共同研究を行ったことがあります、その実績は資格として認められますか。	本RFP以外でJAXAと共同研究の実績があっても、資格審査を行っていない場合は認められません。従って、今回のRFPの応募資格を満たして頂く必要があります。
1-2	フィジビリティ研究の評価の観点の中に、「課題解決や事業化を目指す革新的技術の実現性検討の提案であること」という記述がありますが、将来「課題解決型」で実施する内容を記載すればよいでしょうか。	フィジビリティ研究で設定した課題を解決する提案内容を記載した上で、将来「課題解決型」で実施したい内容も記述してください。
1-3	複数の要素技術について提案しても大丈夫でしょうか。また、その場合、それらを組み合わせてひとつの研究テーマとして提案するイメージでしょうか。	複数の要素技術を別テーマとしてご提案頂いても結構ですが、それらを組み合わせて採択することはありません。個別の提案ごとに審査します。採択内定後、研究提案の内容に応じて、研究費額を上限の範囲内で調整することはありません。
1-4	複数の企業で連携して提案することは可能でしょうか。	研究テーマや研究提案に応じて、ご提案者様とJAXAの2者で共同研究契約を締結し、ご提案者様とパートナー企業に外注する形態や、ご提案者様、パートナー企業、JAXAの3者で共同研究契約を締結する形態のいずれも選択可能です。HPに掲載の契約書雛形をご確認ください。
1-5	研究費5,000千円は、研究提案1案件当たりの金額でしょうか。あるいは複数の研究提案の研究費の総額でしょうか。	今回募集するフィジビリティ研究では、研究提案1件当たり5,000千円、12ヶ月以下となります。予算総額の5,000千円を研究提案数で配分するものではありません。
1-6	「募集課題一覧」の"4.歓迎する技術、想定する業種"に、具体的な業種名が列挙されていますが、記載のない業種は対象外でしょうか。	4項には、JAXAが課題設定時に想定した「歓迎する技術、想定する業種」を列挙させて頂きましたが、記載されていない業種を排除するものではありません。これまでは想定し得ない幅広い分野の業種、事業者からの研究提案を期待しています。
1-7	製作済みの素材などを流用した提案は可能でしょうか。	製作済みの素材などを流用頂くことは可能です。また、共同研究の経費内訳として、既にある素材などの製造費は計上出来ませんが、その素材などを試験片に加工する費用は計上可能です。
1-8	「様式 1_研究提案書」の2.(6)の①については、今回提案の技術開発に係る案件のみでよいでしょうか。政府機関に係るもののみによいでしょうか。	今回ご提案頂く技術開発に係る案件のみで結構ですが、今回ご提案頂く技術開発に係る案件であれば、政府機関の外部資金に限らず申請をお願いいたします。
1-9	「様式 1_研究提案書」の2.(6)の③については、今回提案の技術開発に近い案件のみでOKでしょうか。あるいは全案件について記載する必要がありますでしょうか。	宇宙戦略基金で複数の資金を獲得している場合は、採択されたすべての技術テーマを明記頂くとともに、今回のご提案内容がそれら複数の研究とは完全に異なるものである旨をご説明ください。
1-10	募集要項3-3.応募に必要な書類⑤のうち、「3-1.(3)項に示すいずれかの応募資格を証明する書類」について、「3-1.(3)③の場合：交付決定通知の写し又は公開HPの情報の写し」で対応する場合、JAXA様HPに掲載されている、過去の研究提案募集の選定結果（弊社名記載部分）をPDF化することで対応可能でしょうか。	「3-1.(3)③の場合:交付決定通知の写し又は公開HPの情報の写し」とは、JAXAの過去の研究提案募集の選定結果ではなく、「科学研究費補助金」の交付決定通知書となりますので、当該写し又は公開HPの情報の写しをご提出ください。

2. 研究の進め方について		
No.	質問	回答
2-1	フィジビリティ研究では実際の物作りまで行うのでしょうか。あるいは物作りは行わず、情報交換や技術の適用可能性の確認まででしょうか。	ご提案によります。実際にどこまでやるかは、採択内定後に研究実施計画を調整し、双方で合意して進めます。
2-2	JAXAと実際に共同作業をする頻度はどの程度でしょうか。	採択内定後に双方が合意する研究実施計画によりますが、概ね月1回程度進捗確認と、必要に応じて技術調整等を行っている事例が多いです。
2-3	共同研究開始後に、新たにパートナー企業を参加させることは可能でしょうか。	共同研究実施計画の改訂を行えば変更可能と考えています。ただし、フィジビリティ研究の期間及び費用は12ヶ月以内、5,000千円以下となっているため、実質的には期中での変更は難しいのではないかと考えられます。
2-4	ステップアップ制度に関して、公募要領で「フィジビリティ研究として公募された研究課題については、課題解決研究だけに参加することはできません」とありますが、課題解決研究の段階で研究参画機関を増やすことは可能でしょうか。	課題解決研究へのステップアップ時に、改めて「共同研究実施計画書」を作成いたしますので、その際に実施機関を追加いただくことは可能です。
2-5	フィジビリティ研究の1つの研究課題で複数採択があった場合、それら複数フィジビリティ研究を集約（合流）して課題解決研究に取り組むことも可能でしょうか。	当該フィジビリティ研究の実施機関及びJAXAが、フィジビリティ研究を集約して課題解決研究に取り組む方針に合意出来れば実施可能と考えます。

3. 研究課題について		
No.	質問	回答
3-1	【課題No.1】 冷却構造を含めた断熱材は対象外でしょうか。無冷却で、材料だけで耐えられるものが対象でしょうか。	今回は冷却構造を含めた断熱材は想定しておりません。
3-2	【課題No.2】 このフィジビリティ研究においてどのようなレベルの試験を想定していますでしょうか。	材料になんらか耐雷処置を行い、雷撃を受けても破壊しないことを確認するところまでを想定しています。
3-3	【課題No.2】 材料を構造として作り上げ、雷撃試験まで実施する場合、JAXAとはどのような役割分担になりますか。	材料のフィジビリティを確認するための試験片レベルであれば、JAXAの調布航空部門で所有する雷撃試験の設備を使用することが可能です。提案者側で雷撃試験まで実施する提案か、ここからはJAXAでの実施を希望するという提案か、いずれかにな
3-4	【課題No.2】 どの程度の導電性を求めるかは目標設定によるところが大きいと思いますが、JAXAで、どの程度の損傷面積まで減らしたいといった目標設定はありますか。	雷の強度は、一般的な航空機の耐雷設計の条件と同等と想定しています。どの程度の損傷面積であれば耐雷性があると判断出来るかについては、システム全体設計に依存すると考えています。要素技術として目標設定するのは難しく、雷撃に対して
3-5	【課題No.2】 アルミハニカム構造の場合、表面のスキンが損傷したらアウトという考えでしょうか。あるいは、ハニカムまで挟れる様な損傷を想定していますか。	CFRPスキンが表裏にあることによって、アルミハニカムサンドイッチパネルの高い面外剛性が維持されることから、スキンが大きく損傷したり、ハニカムコアがえぐれたりするようでは耐雷性があるとは言えないと考えます。スキンで導電性を上げてどれだけ電流を逃がせるか、スキンをどの程度厚くすればよいか、層間に何か材
3-6	【課題No.2】 断熱材の評価について耐水性、耐熱性、紫外線耐性があると好ましいという記載について、標準的な試験条件のイメージがあれば教えてください。	現時点で具体的な基準はありません。逆に、御社の実績を研究提案に盛り込んで頂ければ、JAXA内外の評価者にもアピール出来るのではないかと考えていますので、ご検討ください。
3-7	【課題No.3】 メタン爆発実験の開示データは、どのようなデータでしょうか。	JAXAが直近で実施した1kg級のメタン爆発実験データの開示を予定しています。
3-8	【課題No.4】 TRL1-2の研究テーマを想定していますか。	エアブリージングエンジンの性能向上や重量低減に資する研究であれば、TRL1-2のアイデアレベルの提案も歓迎します。ただし、全く新しいエンジンシステム（TRL1-2レベル）の提案は想定しておりません。
3-9	【課題No.4】 機体システムに関する提案でもよいですか。	エンジン性能を向上させる提案であれば可能です。
3-10	【課題No.4】 JAXAで開発された設計ツールも開示されますか。	設計ツールについては、共同研究開始後、必要に応じて開示します。
3-11	【課題No.5】 衝撃緩和技術については、着陸脚や搭乗員シートも含まれますか。あるいは機体の衝撃緩和技術が対象でしょうか。	搭乗員シートや着陸脚だけでなく、着陸・着水時の機体全体における概念検討も含め、全体システムでどのような戦略で着陸衝撃を緩和・吸収するか検討していくことを想定しています。
3-12	【課題No.5】 JAXAからどのようなツールや知見が提供されますか。	HTV搭載小型回収カプセルやHOPE-Xに関する知見を想定しています。
3-13	【課題No.5, No.6】 研究の全体計画として①と②が書かれており、①が今回の研究範囲となりますが、①の研究の中で②を見据えて研究するということでしょうか。どのような形で②に進むのでしょうか。	①のフィジビリティ研究の中で、どのような課題があるか、技術課題の優先度も確認します。それらの課題が見出されたところでステップアップしていくことを想定しています。1年でフィジビリティ研究を実施し課題スコープを明確化させた上で、②の、より詳細な検討に進むことを想定しています。
3-14	【課題No.6】 機体形状としてはカプセル・有翼・Starship型などが考えられます。有翼の場合、JAXAではHOPE-Xなどがありますが、共同研究におけるJAXA側の体制はどのようになりますか。	HOPE-Xに限らず、JAXA内の専門家と連携しながら進めていく予定です。想定するJAXA側の研究者があれば、提案書に記載してください。
3-15	【課題No.6】 宇宙戦略基金（第二期）で公募されている「有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術」との違いは何ですか。	宇宙戦略基金では課題No.6の研究テーマ全体像の図中にある”①アポート分離噴射”がテーマとなります。本RFPではそれ以降のターゲッティング噴射やターゲット着地をスコープとしています。特に、日本の周辺海域の特性を考慮したアポート運用評価を対象としています。但し、打上射場などは特定していません。
3-16	【課題No.6】 打ち上げ直後のアポート後の誘導制御は現実的ではないように思いますが、研究の対象でしょうか。	可能性は低いですが、システムによって帰還する場所などが異なると考えており、積極的に対象外にしているわけではありません。
3-17	【課題No.6】 課題設定を見るとカプセル型を想定しているように見えますが、有翼は対象外でしょうか。	カプセル型や有翼型等対象を特定しているわけではありません。誘導制御能力の違い等ではありますが、いずれの機体でも、誘導制御して危険地帯を避けるという考え方は変わりません。

4．契約、成果の扱いについて

No.	質問	回答
4-1	共同研究の成果はすべて共有知財となるのでしょうか。共有不可という取扱いも可能でしょうか。	知財の独占制度もあります。募集要項「4 .知的財産・成果の取り扱い」をご参照ください。
4-2	「委託契約及び支出を伴う共同研究契約に係る事務処理について」（資料6）の2.費目について、 JAXA査定レートがある場合の直接・間接経費は、JAXA査定レートでの人件費×GCという算出(税抜)でよいですか。	JAXA査定レートがある場合の人件費はJAXA査定レート×想定工数で人件費欄に計上いただき、GCは一般管理費（間接経費）欄に計上してください。詳しくは募集要項2-9項や下記URLの資料6「委託契約及び支出を伴う共同研究契約に係る事務処理について」をご参照ください。 https://www.kenkai.jaxa.jp/research/kakushinyusou/request04/data/rfp_jimu.pdf
4-3	共同研究契約書雛型（独占）／（非独占）の第5条（情報交換）第1項について、第三者の秘密情報が含まれている場合はどのような対応をすべきか、JAXA様の方針があれば教えてください。	御社が保有する情報、資料又はプログラム等（以下「技術資料等」という。）に含まれる第三者の秘密情報の取扱いについては、御社と当該第三者との間の契約に準じて頂くものと理解しております。そのうえで、JAXAとの共同研究契約にどう反映させるかについては、担当研究者を含めて個別協議になるものと考えます。